

「授業中の教師の言葉かけや動き(ふるまい)」について考える

【中学校】初任者研修に係る校外研修「授業参観」より

【日田教育事務所】

◆◆要旨◆◆ 初任者研修「授業参観(中学校)」(管内中学校初任者、教育事務所)

○目的

令和5年度初任者研修の対象者に対し、授業参観及び授業づくりに係る研究協議を通して、実践的指導力の向上に資する。

○授業参観及び協議の視点

授業中の効果的な教師の言葉かけや動き(ふるまい)について

◆◆開会行事より◆◆

～次の3点を教師と生徒で共有し、未来へ～

- ①希望と目的…希望の実現 それは何のため？
- ②勇気と責任…勇気をふるう それが自分の責任のひとつ
- ③前進と改善…一歩前に それが改善

授業の概要

受講者の学び(「アンケート」より)

- ◆国語科 中学校第1学年
- ◆単元名「君とつくるエピソード」
(教材名「少年の日の思い出」) <全7時間>
- ◆本時のねらい <第2時>
「エピソードを書くために、物語の場面展開を描写を基に整理することができる。」(思考・判断・表現)

【めあて】場面展開を整理し、エピソードを書くための学習プランを立てよう。

【課題】場面の展開を把握するためには、どのような描写に着目すればよだろうか。

【まとめ】場面の展開を把握するためには、事件の発端、山場、クライマックスなどを表す描写に着目すればよい。

【振り返り】人物描写から登場人物の気持ちの変化だけを追うのではなく、物語の「核」となる事件を描写から捉えることが大切だということをあらためて確認できた。(など)

<生徒の主体性を大切にする>

■机間指導・支援の際に

- ・生徒と目を合わせる立ち位置、姿勢
- ・生徒一人に対しても丁寧な言葉遣い

■タイマーを使わない。

- ・生徒の思考を機械音で区切らない
- ・生徒自らが学習時間を意識する工夫
- ・明日の授業からすぐに意識したい！

<言葉かけの効果>

■肯定的な言葉かけ⇒自尊心の高まり

⇒「次からの2時間は、あなたたちにあずけるよ。」
「その考え、いいね。書こう。」

■方向性を示す言葉かけ⇒思考の促進、深化

⇒「『僕』の行動に着目して考えるんだね。」
「共通の疑問は押さえよう。」
「この疑問がたくさんあるね。」

<生徒が主体的に進める授業>

■生徒が自ら授業(学習)を進められるよう単元構想

- ・自分はやったことがないので、ぜひチャレンジしてみたい。
- ・単元全体でなくても、まずは2、3単位時間を生徒にまかせてみたい。

■授業の冒頭で、単元のゴールの姿を生徒と共有

- ・「教師が生徒に学習の見通しを持たせる」のではなく、「生徒が学習の見通しや目的をもつ」工夫の一つとして参考になった。

■教師の出番

- ・端的な説明 ・「ここは」という押さえどころ

★素晴らしい初任者の姿・紹介★

○教科の壁を超えた協議

- ・研修意欲の高さ(協議・交流)

○参観授業の課題点について協議

- ・授業を自分事として捉え、言語化